

ふう けい き こう
風景紀行
浅間山麓の森林
 61
 東信森林管理署
 (各署の景勝地等を紹介)

浅間山麓の森林

〔東信署〕浅間山（標高二千五百六十八メートル）は、長野県軽井沢町、御代田町と群馬県嬭恋村との境にあり、我が国有数の活火山として知られています。

なだらかな裾野を引く浅間山の山麓では、冷涼な気候などの自然環境から、観光やリゾート地としての開発が進んでいきます。浅間山の南側は、標高千メートル付近までが国有林となっており、訪れる人々が身近に国有林と接することができます。

浅間山麓を東に向かうと、リゾート地として知られた軽井沢があります。軽井沢の星野温泉近くに、詩人北原白秋の代表作「落葉松」の詩碑が建っています。

からまつしの林を過ぎて、からまつをしみじみと見き。からまつはさびしかりけり。たびゆくはさびしかりけり。と始まるこの詩は、大正十年、白秋が当地

を訪れたときに詠んだものとされ、多くの文学作品の舞台となった軽井沢の往時の情景が偲ばれます。

この場所に隣接する国有林は、「国設軽井沢野鳥の森」として、今は、自然とのふれあいを求めて訪れる多くの人々で賑わいをみせています。

古代、軽井沢辺りには、「勅旨牧」のひとつ「長倉の牧」があったといわれています。「勅使牧」とは、平安時代、朝廷に納める馬を生産するため、天皇の勅旨により置かれた牧場で、「長倉の牧」は軽井沢一帯の広大な面積を占めていたと考えられています。

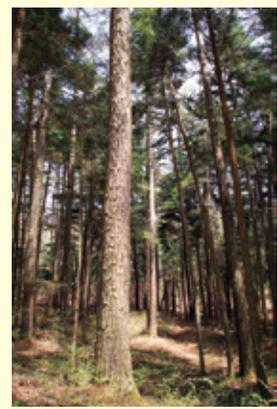
軽井沢町内には、「駒飼いの土手」と呼ばれる「長倉の牧」の牧堤跡が残っています。この「駒飼いの土手」は、浅間山麓から浅間山の側火山「石尊山」に登る途中の国有林内にもその痕跡がみられ、今は森林に覆われるこの辺りも、かつては広大な草原を馬が駆ける牧野であったことがうかがえます。



石尊山登山道

また、軽井沢から浅間山麓を西に向かった御代田町の国有林では、江戸時代末期に小諸藩によって植栽されたとされる日本最

古のカラマツ人工林や、「霧上の松」として有名なアカマツ天然林の群落を見ることが出来ます。学術的に貴重なこれらの森林は植物群落保護林として保護されています。



日本最古のカラマツ人工林

気候冷涼な浅間山麓では、これから行楽の好季を迎えます。

活火山特有の自然条件や歴史による森林景観の成り立ちにも思いをはせながら、初夏の浅間山麓を散策してみたいかががでしょうか。

◆アクセス方法

マイカー利用の場合、上信越自動車道小諸インター又は碓井軽井沢インターから三十分から四十分程度



軽井沢野鳥の森



浅間山遠景